



山梨県立山梨高等学校同窓会 同窓会だより



ごあいさつ

同窓会長 吉原 五鈴子

山梨高校同窓会だよりを出すようになって十年、ここに第20号をお届けできますことを心から喜びたいと存じます。同窓生の皆様には日頃様々にご理解ご協力を頂き感謝にたえません。

このたよりが配布されると間もなく改元となります。たよりを発行してからの10年、瞬く間でありましたが、山梨高校同窓会としては学校当局と共に、本校創立100周年記念事業を完遂することもでき、感謝感激であります。

この春には、187名の卒業生を、新たな同窓会員として迎えました。私は卒業式の祝辞に当たって「自立と自律」という言葉を贈らせて頂きました。この方達には、主権者としての自覚を持った言動が今後も期待されていること、日本国憲法の三原則「主権が自らに在ること」「基本的人権の尊重」「平和主義」を常に心において、これからの社会を生き抜いていって欲しいからです。

平成になって早々、私が仲間と共に研修で訪れたデンマークでは、18歳からの一人ひとりの自立を目指す職業教育の充実が図られていました。ホームステイした家庭では、両親は共働き、丁度18歳を迎えた次男の方は、大工さんになる学校に就学中でした。長男の方は公務員を目指し専門学校で資格を習得、2人とも職が決まった時点で家を離れるとのことでした。国の施策も個々の家庭の考え方も、本人の自立する力を信じて育てる方向に動いている事を学びました。

我が国では、人の自立を支える施策や社会も、未だ未成熟な状況にあります。18歳は立派な大人と認められるからには、本人は勿論、取り巻く周囲にも彼らを支える努力が求められています。

こうした素晴らしい同窓生に支えられ、山梨高校が更に大きく前進することを期待し、挨拶と致します。

梨高生の異文化交流

学校長 三森 克人

インバウンド、いわゆる海外からの旅行者が増えています。確かに、ここ山梨でも観光地だけでなく白根三山など山間の地までその波はあらゆるところに押し寄せています。また、旅行者だけでなく生活者として外国人が隣人となりつつある現在、言葉の壁を越え、その向こうにある真の相互理解がますます必要になっています。

本校では昭和63年9月から、英語を母語とするALT(assistant language teacher)が着任し、以降常駐の教員として現在まで継続しています(在任期間は1人1年～3年)。生徒たちは英語の授業だけでなく、放課後なども積極的にコミュニケーションをとる中で国際感覚の涵養や英語力の向上に努めています。また、平成15年9月にはオーストラリア・インベスティゲーターカレッジ校と姉妹校締結し、以来基本的には毎年交互に訪問し交流を続けています。本年度は10月12日から本校生徒の家庭にホームステイする形で過ごしました。学校では、フードデザインの授業でほうとうを料理して食べたり、書道の授業で団扇に臨書したり、放課後には茶道部が茶会を開いたりして触れ合いました。4泊5日の滞在を終え山梨市駅で別れる際には、両校の生徒が涙ぐんで別れを惜しむ場面も見られました。この3月には生徒19名教師2名が訪蒙し、授業や校外学習などを通じて交流を図る予定です。これらの経験は必ずや相互の理解を深め、視野を広げているはずで

生徒たちは学校という場所で多様な価値観と出会いながら成長し、巣立っていきます。今年も全日制・定時制合計で187名が卒業を迎え同窓会の仲間入りさせていただきました。今後とも卒業生、在校生への変わりぬご支援ご協力をお願いいたします。



研修旅行記

平成30年度の同窓会研修旅行は、恒例の10月23日・学校創立記念日に行われました。



国立西洋美術館前

本年は東京方面。上野の西洋美術館でルーベンス展、築地場外市場、浜離宮庭園、隅田川を船で浅草方面までのコース。

朝7時30分JA加納岩でバスに乗車。皆の顔がうきうき。「雨が心配ね」バスの中で会長、校長先生のごあいさつに続き、副会長の落合さんの指導で「あした、また」の練習。卒業生の三木那名子さんの詩、御主人の三木悠さん作曲。詩もメロディーも心に響くすばらしい曲。同窓会の愛唱歌にしたい。

上野西洋美術館前で東京組五名と合流。28年度卒の男性内田直彦さんも参加。ルーベンスの絵はやさしい色。デッサンの子どもの顔から力強い宗教画まで。「フランダースの犬」の主人公ネロは教会のルーベンスの絵を見ながらに昇る。時を経てルーベンスの絵を身近に見れる。なんて幸せ。築地では各自好きなお店で買物、食事。外国人も多く、英語で語りかける会員も。「どこのお国から?」しばしば国際交流。築地のお刺身定食はさすが。浜離宮庭園は江戸時代、甲府下屋敷として造られた。広々とした庭園は海水を池にとりこんで、昔はあひるをおとりにして鴨をとったという。雨もあがりゆっくりに散策。

ここから船にのり、浅草方面へ。川の兩岸は高いビル、公園。隅田川を渡る、デザインを工夫した橋をくぐる。車のドライブとはちがった角度から見る東京。この頃から雲間から太陽。素敵な光景は私達へのプレゼント!

共に一日の旅をすこすと、声をかわすことも多く、親しくなり、同窓会が身近な存在に思えてくる。

東京支部 雨宮道子記

奨学金授与式に臨んで

12月12日、平成30年度第51回目の奨学金授与式が梨窓ホールで行われました。奨学金を授与される生徒たちは、当日の同窓会役員会で承認された7名です。吉原会長をはじめ、同窓会役員、学校長、関係の先生が見守る中、奨学生とその保護者が温かい拍手に迎えられ入場し、開式となりました。まず、同窓会長より、はなむけの言葉としてご自身の高校時代の奨学事業について語られ、三森学校長から「各自、更なる飛躍に繋げて欲しい」との励ましの言葉がありました。最後に、奨学生の代表として3年生の廣瀬海佑君から「学業への取組みと、部活動を評価して頂き光栄です。これを機に更に頑張ります」と、感謝と誓いの言葉が述べられました。清々しい7名の奨学生に接し、この同窓会事業がずっと続けられることを願わずにはいられませんでした。



同窓会入会式

春の気配が感じられる2月28日、同窓会入会式が行われ、187名の新同窓生が誕生しました。これにより梨高同窓生の会員数は29,000程となり、また、11名がクラス理事に委嘱されました。吉原会長より「母校の皆さんの活躍が同窓生にとって、励みや喜びをもたらしてくれている」との感謝と「理事の皆さんを中心に母校山梨高校を折に触れ盛りたててもらいたい」との激励がありました。また、書道部の書に「今のすべてが、未来の希望」とありましたが、今も忘れられないと結び、歓迎の言葉が贈られました。新入会員を代表して伊藤広葉さんが「伝統ある山梨高校同窓会に入会を許可され、それぞれの道へ進むが、誇りと責任を持って山梨高校に恩返しをしたい」と力強い決意が述べられました。良き伝統の中で多くの経験を積み学んだ事を胸に今後益々活躍してくれることを期待しています。

卒業証書授与式

春の息吹が感じられる3月1日、平成最後の山梨県立山梨高等学校卒業証書授与式が厳かに挙行され、胸に桜の花を飾った卒業生に卒業証書が授与されました。

校長先生の式辞では「本校で学んだ3年間、勉学や生徒会活動に多大な功績と、後輩に素晴らしい見本を残されたこと、「これからも思いやりや感謝の気持ちを忘れずに幸多き人生を送ってほしい」との言葉が述べられました。吉原同窓会長の祝辞では、100年の伝統ある学校を築立ち、選挙権等も与えられた大人としてそれぞれの分野で活躍される事を期待する」とのはなむけの言葉が贈られました。最後の別れの歌は、惜別の思いが込められ、素晴らしい卒業証書授与式でした。



同窓生の活躍紹介



「思い出を 人形に込めて(喜寿の作品展)」

小倉 登志子 笛吹市在住/昭和33年度卒業

今回は、小雪も過ぎた11月末、笛吹市で手作り人形などの展覧会を開催した同窓生、小倉登志子さんをお訪ねし、人形作りについてお話を伺いました。笛吹市石和町に生まれ、ご結婚後家業の酒類販売業に携わる中、人並み優れた才能を生かされ、こつこつと人形などの制作活動を続けてこられた小倉さん。私たちがお訪ねしたその日も、多くの参観者が訪れ、その作品の素晴らしさに時を忘れて見入っていました。会場はまさに別世界、100点余りに及ぶ作品の見事さ、細やかさに改めて驚愕すると同時に深い感銘を覚えられました。接客のお忙しい中でしたが、どうしてもお聞きしなければならぬ思いで、早速インタビューをさせて頂きました。およそ40年間にわたる制作の歩みを慎ましく謙虚に語られながら、そのお話には学ぶことが多々ありました。

一高校時代の一番の思い出は？

小倉さん：(思い出すように) 世界史をご指導頂いた黒川先生の授業かな。先生のお宅は実家に近くお寺でしたから、よく伺って色々なお話を聞かせて頂いたのが懐かしいです。

一このような作品を手がけられるようになった切っ掛けは？

小倉さん：子どもの頃からもの作りが大好きでした。仕事が一段落した数十年前から、忘れていていた日本の昔話や童謡・唱歌などを思い出し、登場人物やその風景などを色々な方法で表現してみました。2・3年後には人形作りへのめり込み、本格的に取り組むようになってきました。平成23年に新聞で紹介されたことを切っ掛けに、多くの方々に観て頂きたいの思いが募り、展覧会を催すようになりました。展覧会は人生の節目である「還暦・古希・喜寿」の3回は開きたいと思い続けてきました。

一こうした素晴らしい作品を制作なさるに当たっての工夫やご苦労は？

小倉さん：制作教室に通ったこともなく全く全くの独学なんです。まあ、苦労と言えば、作品に立体感と柔らかさを持たせることや物語に合った色彩を表現することです。

ならばと思い、作業場の中を見回すと、沢山の教本が並び、机の上には、昔懐かしい児童向けの絵本の数々。また、小引き出しの中には、色とりどりの古布がどっさり重ねられて在り、こうした努力があって数々の見事な作品が生み出されたのだなあと、感激しました。

一40数年にも及ぶ長い間続けてこられたエネルギーは、いったいどこから湧き出すのでしょうか？

小倉さん：とにかく創ることが楽しいこと、夫の理解協力のお陰です。成る程と感心しながら表に出ると、ご主人が交通整理や落ち葉を集めるなどなさりながら「今度ははくらの作品を展示して欲しいな」とのこと。素敵な夫婦仲を垣間見させて頂きながら、会場を後にしました。



旅の魅力



旅というのは、誰にも愛されるものである。それは、人々の心を和ませてくれると共にその人を成長させてくれるものである。例え、その目的が自然探索であれ、歴史探訪であれ、芸術鑑賞であれ、その他であっても、その目的で旅の意義が変わるものではない。

私は、旅に出かける前には必ずその方面への旅程を探り、その行程にある風景や諸々の事象に想いを巡らせながら夢を膨らませる。また、目的についての内容をあれやこれや想像することにより心のときめきをより一層大きくするのである。こんな事前の計画と言うか調べ事が旅の一つの楽しみでもある。

旅のもう一つの楽しみは、その事後にある。旅の足跡を心に刻むか、アルバムに残し時々そっと思い出すこともある。また、その思い出を友と語り人と人の良い関係を増幅させることもある。

また、場合によっては、あんなこともしたい、こんなこともしたい、どんな服装が旅に合っているか等を考えるのも楽しみの一つでもある。

そんな旅であればこそ、それが自らのものであれ、他者に誘われたものであれ、家族旅行であれ、団体旅行であれ、許される範囲で積極的に参加し、自らを少しでも高め楽しく豊かな生活を築く糧としたいと思っている。

私たち同窓会恒例の研修旅行の前後にも、こんなことを考えながら参加すると、一層有意義な充実した研修になるのではないかと思っている。

三科典子記

学校だより・学校ニュース

「強くなった絆・深まった仲」卓球部2年 平山 歩美

先輩方が引退された後、私は卓球部の部長になりました。新体制になって部員との関係に悩んだり、顧問の先生との意見が食い違ったりすることがありました。しかし、部員の中で先輩後輩関係なくお互いに思っていることを言い合うことができる環境づくりを始めてから楽しく部活動に臨めるようになりました。そのおかげもあり、新人大会では2回戦でシート校を破り、3回戦で練習試合では負けていた相手を破り4位に入賞することができ、関東大会への出場権を獲得しました。

関東大会に出場するのは、部員全員が初めての経験だったので、とても緊張したのが自分たちのプレーもできず惨敗でした。しかし、トップレベルの選手たちとの試合や他のチームのプレーを見ることで、自分たちの課題を見つけることができました。さらに部員と戦略を考えたり、空き時間にはリラックスし、緊張をときほぐしたりしました。3日間を共に過ごすことで今まで以上に互いの仲を深めることができ、これまで知らなかった部員の一面を知ることでもできたことも大きな収穫でした。

関東大会で経験したことを男子部員にも伝え、現在は部員同士がお互いに指導し合うことで自分の課題を改善し、得意な部分を伸ばせるように日々の活動に取り組んでいます。

関東大会出場を経験を生かしながら、残り少ない時間を充実したものにしていきたいと思っています。

最後になりましたが、これまでお世話になった先生方・保護者へ、応援して下さいた多くの皆様方へ心から感謝申し上げます。



山梨県山梨市山梨高等学校 卓球部2年 平山 歩美

「挑戦」

囲碁将棋部1年 若月 瑞歩

私が将棋に出会ったのは、入学して少し経ってからでした。新たな事に挑戦してみたく、同世代で活躍している藤井聡太さんの影響を受け将棋を始めました。分からない事だらけでしたが、将棋をさす先輩方の姿を見て、私も「美しい将棋をさしたい。先輩以上に強くなりたい」と思うようになりました。

囲碁将棋部は他の部活動より活動日数が少ない中でしたが、部長を中心に頑張ってきた。3年生が引退すると、1年生だけの活動が多くなりました。11月にある芸文祭に向けて、練習を重ねてきました。その結果、私は芸文祭で関東大会への出場が決まり、嬉しかった反面今の私では何も出来ずに終わってしまうのではないかと、とても不安でした。

関東大会出場が決まってからは、部長や仲間が練習に付き合ってくれました。思うように成果が見られず思い悩んでいた時「強くなるのも大切だけど、将棋が嫌いになったら練習の意味がないよ」との友だちの言葉に元気づけられました。

そして、関東大会当日、程良い緊張の中で将棋をさすことができましたが結果は思うようではなく、美しい将棋とはほど遠いものとなってしまいました。4月に始めたばかりなのに関東大会にまで出場出来たことは、関わって下さった皆様のお蔭だと感謝しています。これからも精進していきたいと思えます。



山梨県山梨市山梨高等学校 囲碁将棋部1年 若月 瑞歩

平成31年度 山梨高校同窓会 総会・懇親会

ぜひお越しください!!

日 時 ▶ 平成31年4月29日(祝) 受付9:00~ / 開会10:00~
会 場 ▶ 山梨県立山梨高校体育館ならびに梨窓ホール
当番幹事 ▶ 昭和51年度・平成8年度卒業生
会 員 券 ▶ 3,000円
同窓会長 ▶ 吉原五鈴子 実行委員長 ▶ 窪川美和子

今回の懇親会は、甲府市出身の「NYT」です。ハイオリンとキターの変である美しい調べをお楽しみください。



山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局

〒405-0018 山梨県山梨市上神内川194
http://www.yamah.kai.ed.jp/
TEL0553-22-1621
FAX0553-22-1623